



新人職員一泊宿泊研修報告

日時：5月24日～25日
場所：スパランド裸・楽・良
(株) カクイックス他



(株)太陽化学

【新人看護師】 4階西病棟 甲斐

今回の宿泊研修に参加して、他部署との交流の中で他己紹介がありました。ほとんど話したことのない相手に緊張しましたが、どのような人なのだろう？と興味を持ち自分との共通の話題を見つけることで、会話が広がっていきました。この体験を今後も生かし、患者さんに関心を向け、良い関係性を築いていけるように努力していこうと思いました。また、マングラート作成では、グループで目標を立て、その目標に近づくために自分たちが日々どのように過ごしていかなければならないのか、意見を出し合い具体的な行動を立てました。半年後の評価では、一步でも成長し笑顔で仕事をしている自分でありたいように頑張っていこうと思いました。



薩摩川内市消防局



陶芸体験(みやま陶遊館)

スパランド裸・楽・良での研修



【教育委員】 3階東病棟主任 皮籠石

新人職員宿泊研修に5月24日、25日で、教育委員として参加させて頂きました。他職種を交えての研修とあって、緊張を持ての参加でした。他己紹介やウォークラリーなどを通して、お互いに話しをし、協力している姿を見ることができました。また、施設見学では、病院サポートの事業所や近隣施設にどのようなものがあるかを知る研修となりました。みやま陶遊館では、物づくりをする中で笑顔もみることができ、目的である社会人としてのチーム連携や協調性を学ぶ事、リフレッシュを図ることができたと思いました。



ウォークラリー

【プリセプター】手術室 堀田

今回プリセプターとして新人職員一泊宿泊研修に参加させてもらい、新人一人ひとりの悩みや成長に触れました。それぞれ社会経験が違う新人職員10名ですが、切磋琢磨しあいながら成長していることを知りました。また、リフレッシュできるような研修内容も組まれており、新人職員それぞれが楽しんで研修に打ち込む様子も見られました。今後の新人職員の成長を見守っていければと思います。

院内研修

5/7 ラダーⅢ「当院が望む看護師像」を受講して

3階東病棟 八牟禮

講師：医療安全管理者 副看護部長 長井 砂都美

講義を受講しラダーレベルの目標を確認する事で、目指すべき看護師像について考えることができました。ジェネラリスト・スペシャリストのどちらかを目指すにしても、研鑽を行い自身の能力を高めていこうとすることが大切だと感じました。目指したい理想的な看護師像は、ある程度のキャリアを積み重ねても到達しきれていないものでもあり、自分の意思一つで先を目指し、成長していけると感じました。私は、クリニカルパス委員として長年クリニカルパスに関わっていますが、その事は自分の強みでもあります。自分の強みを活かし、研鑽を続けラダーレベルⅢの役割を発揮していこうと思います。



5/13 レベルⅠ「メンバーシップ」を受講して

4階西病棟 西野

講師：手術室主任 大迫 聡



今回の研修でメンバーシップとは、リーダーが進もうとする目標を確認し、チームで協力して担当する患者に効果的な看護を提供する為の力を発揮する事と教えて頂きました。リーダーの意図を的確に判断し、行動する能力が必要だと改めて学ぶ機会になりました。今までの自分の働き方を振り返ると、リーダーから指示を貰う事が多く、チーム間で協力して日々の仕事を行う事ができていなかったと思います。今後は、自分のペアの事だけではなく、チーム全体の状況をリーダーに確認して、チーム全体が効果的で安全に看護を提供できるようにしていきたいと思います。

4/24 看護補助者研修を受講して

回復リハビリ病棟 三窪

講師：3階東病棟師長 久留須 加寿美

倫理とは、患者さんに対して、尊重、安全、守秘、信頼、平等である事です。身体抑制、セサマット、4本ベッド柵もその1つだと思います。私達は、毎日このことについてカンファレンスを実地しています。私もカンファレンスに参加し、抑制を早く外せるようにはどうしたらよいか、補助者の目線で積極的に発言をしていきたいです。認知症の方に対しても、忙しいと「また後でね」と軽く対応をしてしまう事があります、マニキュアの4つの柱（見る、話す、触れる、立つ）を思い出し、可能な限り話しを聞いてあげられるように心がけてケアしていきたいです。



病棟活動紹介

包括ケア病棟の院内サービスについて

包括ケア病棟副師長 片平

入院中でも、患者同士がお話をしたり、一緒に何かを作ったり、レクリエーションをする場所があったらという発想から、5月7日より地域包括病棟内のデイサービスをはじめました。

“楽しい時間を過ごす” “一緒に何かを作って達成感を味わいたい” “一日の生活リズムが整えば”と私たちは考えています。

最初はストレッチを兼ねて、体操から初めます。7月の壁紙を作っている最中です、みなさん真剣に取り組んでいます。手先の訓練とともに脳トレにもなっています。

まだ始めたばかりで、手作りのボーリングのピンがなかなか倒れなかったりと、思わぬハプニングもありますが、今まで昼夜のリズムが整わず日中眠っている患者が、デイサービスでレクリエーションを日々続けている中で、看護師と一緒に体操をしてくださり、作品を作りながら「綺麗ね、ここは私が貼ったの」などと、嬉しい反応がみられるようになっていきます。入院という環境変化で不安を抱えている患者に、適度な日中の活動をして頂くことで、夜間眠れるようになるという効果も期待できます。何よりレクリエーションを数人で行う中で、楽しいと感じたり、笑ったりすることが気持ちの安定にもつながっているように感じています。

毎週月曜日から金曜日の15時より行っています、楽しい雰囲気を感じて貰えると思いますので、ぜひ見学にお越しください。



手作りのボーリングのピン



7月の壁紙



ストレッチを兼ねた体操



3階東病棟 中村

私は今回患者一泊入院体験に参加しました。入院となり病室へ案内され待っている間、色々な事を考えとても不安な気持ちになりました。患者さんは病気療養のため入院されるが、疾患に対する不安やこれからの検査など、多くの事を私が思っている以上に感じ考えているのではないかと思います。

この体験を活かし今後は患者さんが何を望んでいるか考え、確認し安心して入院生活や療養ができるよう1つ1つ丁寧声掛けし行動していきたいと思っています。



4階東病棟 寺地

今回は一泊でしたが、本来の患者は1週間から2週間ほど入院することが普通であり、1か月以上入院することもあります。病院である以上自宅のように生活することはできずストレスが溜まっていくことは致し方無いことですが、自分達看護師の配慮次第でそのストレスを幾ばくかの軽減はできると思います。これからは患者の何気ない一言や思いにも注意をはらい患者のニーズを把握し、それらに配慮したケアを行なっていきたいです。



新人看護師基礎研修「他部署体験」を通して（5/15～19）

4階西病棟 茶縁

他部署体験では、自分の職業以外にどのような職種の方が働いているのか、病院内での仕組みについて学ぶ機会となりました。事務や臨床工学技士などの部署に訪れ、業務内容や病院内での決まり事について詳しく聞くこともできました。病院が成り立つためには、様々な職種の連携が必要になってくるという事を改めて実感することができ、今後働くうえでしっかりと行っていけるように心がけようと強く思いました。



院外研修

「2年間のがん看護国内留学研修を終えて」

私は、東京のがん研究会有明病院が行うがん看護国内留学という制度を利用し、2年間がん看護を学んできました。最初の約1年は、食道外科病棟やICUで働きながら経験を積み、がん看護概論や周手術期看護・疼痛コントロールなどを選択受講しました。2年目は緩和ケア病棟へ異動し、終末期の患者や家族のケアを中心に実務を通して学び、化学療法・チャイルドサポートなどを学んできました。

この2年を通して、緩和ケアは誰かがやるのではなく医療者全員が緩和の知識を持ち、患者・家族と関わらなければならないものだと感じた反面、今またその難しさも痛感しています。まずは、スタッフとのコミュニケーションを大事に、一緒にカンファレンスの充実を図り、患者・家族の希望を多職種と共有できるようにしたいと思っています。

4階東病棟 下妻





<マイブーム>

包括ケア病棟 林

マイブームというわけではないですが、今、頑張っていることについて。

子どもたちも大きくなり、今年で長男が6年生、次男が3年生になりました。小学校ではPTA活動があり、毎年色々な専門部に所属して活動してきました。ある時、先輩から「一緒にPTAの副会長をやってみないか」と声をかけられました。はじめは「先輩とならどうにかなるだろう」と思い、一緒に副会長となって早4年（汗）、4回目の副会長を継続させてもらっています。総会の資料作りや準備・毎月の理事会・小学校の行事の手伝い・永利コミュニティの活動など、催し事が多くとても大変です。でも、役員をしていなければあまり話すこともなかった子どもの担任以外の先生や校長・教頭先生とも話せたり、永利コミュニティの自治会の方たちや隈之城小・南中学校の先生・役員の方たちとも交流が持てました。いろんな人たちとの話や考えを聞く事ができ、とても勉強になっています。

永利小校区のお住まいのお父様・お母様方、PTAの役員に興味がある方は是非声をかけてください！お待ちしております。



<ミニナラティブ>

回復リハビリ病棟 川畑

私が受け持ったA氏は、他院で腰の手術を受けてリハビリを目的に当院へ転入して来られました。転入当初は、腰部の疼痛からベッドアップもままならない状態でした。食事でも経口摂取では吐き気が強く出てしまうため、経管栄養を行っていました。このA氏の退院目標は、自宅退院でありましたが、私は、こんな状態で本当に自宅退院が出来るのだろうかと考えた事もありました。疼痛コントロールを行い、少しずつ離床が進むようになり、胃管の抜去のために食事でも少しずつ練習を始めました。小さなおにぎりや味噌汁を摂取出来た時には、一緒に喜び食事量を増やそうかと考える時には、本人や栄養士と相談しながら進め、胃管を抜去する事ができました。セラピストの積極的な介入により、現在では杖での歩行を獲得しADLもほぼ自立する事ができるようになりました。しかし、退院予定時期を目前に家族から、一旦施設入所を考えているとの話がありました。本人の「施設には行きたくない、どうしても家へ帰りたい」という強い希望がある事を知り、相談員へ本人の思いを伝え、家族との調整を依頼しました。結果、家族の受け入れ・協力を得られることとなりました。

今回の事例では、離床や食事、退院後の環境調整など多職種と連携して情報交換を行いながら、積極的に介入したことで、本人の意に添う支援が出来たと感じる事ができました。今後も、患者さんを中心とした退院支援が行えるように関わっていききたいと思います。



編集後記

6月末・7月初めと2度にわたり九州南部を大雨が襲いました。自然災害に巻き込まれた方々も沢山いらっしゃったことと思います。一方、九州北部では水不足とも言われ、暮らしへの影響も懸念されています。また、東京では日照不足により、野菜の生育が遅れ、価格も上昇しているようです。私たちも生活していく上で、社会の変化のみならず、環境の変化に対応できる力を備えていかねばならないとつくづく考えさせられるこの頃です。

(田 口)

